

低・中所得国におけるギャングのメンバーシップを予測する要因がどのようなものかを示すエビデンスがあるが、さらなる調査が必要である。



若者ギャングのメンバーシップは、
に てる。さま まな 、 、
、 、 ュ のさま まな要因によ 、若者が
ギャングに する を予測で る。これらの要
因を知ることは、ギャングのメンバーシップを らすの
に つ。

- 
- 
- 
- 

このレビューの目的は何か？

このキャンベル系統的レビューでは、低・中所得国の若者のギャングメンバーシップの予測因子を調査する。このレビューでは5つの国とカリブ海地域から8つの報告から得られた知見をまとめている。

領域	ギャングメンバーシップと有意に関係しているもの	ギャングメンバーシップに有意に関係していないもの
個人	非行、アルコールおよびソフトドラッグの摂取、性別(男)、危険な性行動、雇用心理的リスク要因(低い自己制御、衝動性)および心理的保護要因の欠如(共感、将来の方向性、道徳的秩序の信念) 被害者性	年齢、民族的マイノリティ、性に関する保護行動、行動あるいはアルコールおよびソフトドラッグの使用
仲間	非行仲間との付き合い	親社会的な仲間との付き合い
家族	負の家族環境 保護者による監視の欠如 中所得世帯は、高所得世帯または低所得世帯のどちらよりも若者ギャングのメンバーシップを報告する可能性が高かった(1件の調査結果)	親の教育 反社会的行動に対する親の態度
学校	学校への愛着の低さ、学校での暴力、学習困難、心理的な困難	教育レベル、学校のタイプ、学校の業績
地域	近隣で暴力にさらされた	近隣環境のリスク・保護要因・地理

表:ギャングメンバーシップに関連する要因

このレビューはどれくらい最新のものか？

レビューの作成者は2013年9月までに公開された研究を探索した。このキャンベル系統的レビューは2018年12月に公開された。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画は、系統的レビューを公開している、国際的・自主的・非営利の研究ネットワークである。我々は、社会および行動科学のプログラムに関するエビデンスの質を評価し、まとめている。我々の目的は、人々がより良い選択そして政策決定ができるように手助けをすることである。

この要約について

この要約は、キャンベル系統的レビュー Angela Higginson, Kathryn Benier, Yulia Shenderovich, Laura Bedford, Lorraine Mazerolle and Joseph Murray 著 “Factors associated with youth gang membership in low- and middle-income countries: A systematic review” (DOI 10.4073/csr.2018:11)に基づいて作成された。Tanya Kristiansen (Campbell Collaboration) が要約を再設定および編集をおこなった。この要約を作成するためのAmerican Institutes for Researchからの財政支援に感謝の意を表します。

このレビューの主たる結果は何か？

このレビューで分析された8つの研究は、ライフイベントと境遇の関連および5つの領域(個人、仲間、家族、学校、コミュニティ)にわたって若者ギャングのメンバーである可能性について取り扱っている。各領域の要因と有意な関連が見つかった。

このレビューの結果が意味するものは何か？

利用できるエビデンスの欠如が若者ギャングのメンバーシップに関連する要因について明確な結論を導き出すことができる範囲を限定する。このレビューは非常に少数の研究に基づいており、対象範囲に大きな制限がある。若者のギャングメンバーシップの相関関係についての限られたエビデンスは、ギャングメンバーシップを促進する要因を示唆し、家族、学校、コミュニティ領域における介入が有望であることが証明できる分野、および将来の研究の出発点を提供する。

